

会 議 要 旨

会議の名称	川越市立川越高等学校教育審議会 令和6年度第3回審議会
開催日時	令和7年1月21日（火） 午後3時00分 開会 ・ 午後4時30分 閉会
開催場所	川越市立川越高等学校大会議室
会長（委員長・会長）氏名	青木 勇藤
出席者（委員）氏名（人数）	大野 好司、小川 修一郎、小高 竜太郎、木村 昌幸、高原 央明、 中村 美穂、三原 孝志、長谷部 辰夫（8人）
欠席者（委員）氏名（人数）	蘆田 章吾、原田 正則、長井 正邦、山本 翔吾（4人）
関係者職氏名	学校教育部 部長 岡島 一恵 市立川越高等学校 校長 飯田 敦 教頭 深井 道彦 事務長 松本 秀規
事務局職氏名	学校教育部 学校管理課 副参事 川鍋 寛 指導主事 後藤 敦 指導主事 宮本 幸二郎
会議次第	1 開会のことば (1) 教育長挨拶 2 議事 (1) 第5回 審議会（令和6年度第2回 会議）会議要旨の報告 (2) 協議事項1 特色ある普通科の教育と商業を重視した実学教育の充実について (3) 協議事項2 市内企業、大学等と連携した取組について (4) 協議事項3 スクール・ミッションとスクール・ポリシーについて 3 諸連絡 4 閉式のことば

配 布 資 料	川越市立川越高等学校教育審議会令和6年度第3回 次第 資料1 第5回審議会会議要旨（令和6年度第2回会議） 資料2 特色ある普通科の教育と商業を重視した実学教育の充実について 資料3 市内企業、大学等と連携した取組について 資料4 「スクール・ミッション」と「スクール・ポリシー」について
---------	---

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
司会	1 (1) 新保教育長より挨拶
教育長	教育長あいさつ
司会	「川越市立川越高等学校教育審議会条例」第4条第2項の規定に基づき、青木会長に進行を依頼する。
会長	会議の公開について (傍聴者なし)
会長	「川越市立川越高等学校教育審議会条例」第5条第4項の規定に基づき、市立川越高等学校管理職の出席について、議事の前に諮りたい。市立川越高等学校管理職が会議に参加することに、御異議はあるか。
委員	「異議なし」
会長	議事(1) 第5回審議会(令和6年度第2回会議)の会議要旨の報告について、事務局から報告を願う。
事務局	資料1「第5回審議会 会議要旨」について(説明)
会長	御意見や御質問等はあるか。 会議要旨は承認することでよい。承認されると、この内容で市のホームページで公開される予定である。
委員	(意見等なし)
会長	異議がないようなので、報告のとおり、会議要旨とする。
事務局	議事(2) 協議事項1 特色ある普通科の教育と商業を重視した実学教育の充実について、事務局から説明を願う。 「資料2 特色ある普通科の教育と商業を重視した実学教育の充実について」 1 普通科の今後について

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	(1) 進学に対応した文系・理系クラス 普通科について、前回の本審議会にて、一般入試、総合型選抜等、生徒の進路希望に沿った指導をするべきであるという意見であった。 本校の主要5教科における授業時数について、バランス良く授業時間を確保している状況であるが、一般入試、総合型選抜等への対応には、課題がある。 (2) 一般入試への対応について 県立川越高校では、生徒の力を伸ばすハイレベル授業として、専門性の高い授業を行っている。3年間を通じてさまざまな進路行事（合格者受験体験懇談会、大学見学、進路講演会、OBによる難関大懇談会）が用意されている 県立川越女子高校では、予習、復習を前提とした授業を行っている。1・2年生は、授業内容の定着を目的とした補習、2・3年生は、大学入試への対応を考えた進学課外補習を平日の早朝や放課後、長期休業期間などを利用して、さまざまな教科で実施している。 (3) 総合型選抜への対応 総合型選抜（旧 A0 入試）は、学力だけではなく、大学が設定する「求める学生像」を踏まえ、多様な選抜方法で、学びへの意欲や人間性等を総合的に判断して可否を決める選抜方法で、進学塾や予備校においても様々な対策講座を開設している。 (4) 市立川越高校の進路指導 本校の進路指導部は、各学年とも2名以上の教員を配置し、学年と進路指導部が連携を取り合いながら、3年間を見通して進路指導を行っている。4年制大学進学状況は、指定校推薦や公募制などの学校推薦が多数を占め、一般受験などは少ない状況である。 2 国際経済科の今後について (1) スポーツに関連した学科名の変更 国際経済科の今後について、前回までの本審議会でも議論した結果、本学科の生徒の部活動への活動状況からスポーツに力を入れたいという実態があり、大学の学科再編からもスポーツのニーズが高まっているなど、学科名の変更については、本審議会でも概ね理解が得られた。学科名の変更について、本校の教職員からスポーツと商業を意味する言葉の融合に

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	したいという意向があり、商業を表す言葉として、広く商業を意味する「ビジネス」が適しているという意見が多くあった。以上より、令和10年度から学科名を、国際経済科からスポーツビジネス科に変更したい。 (2) 入学者選抜 入試改革と生徒募集について、第3回教育審議会にて審議したが、学科名の変更に伴って、選抜方法等の検討が必要である。 令和9年度入学者選抜では、各高等学校が定める入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って選抜できるようになる。 特色選抜を実施する場合は、学科、コース等の特色に応じて、特色検査（実技検査又は作文（小論文））を実施することができる。 (3) 学校設定科目 前回の本審議会では、体育学科の専門科目を履修・修得するよりも、商業の専門科目を履修・修得した上で、学校設定科目を開設して、スポーツビジネスのような内容を学んだ方が良いという意見であった。 1年次では、スポーツビジネスⅠとして、商業科目「ビジネス・マネジメント」の内容を中心に、マネジメントとは何か、スポーツビジネスにおけるマネジメントの概要を理解する。 2年次では、スポーツビジネスⅡとして、商業科目「マーケティング」の内容を中心に、スポーツビジネスにおけるスポーツマーケティングについて学ぶ意義を理解する。 3年次では、スポーツビジネスⅢとして、商業科目「課題研究」の内容を中心に、現代スポーツビジネスにおける適切な課題やテーマなどを設定し、その課題の解決を図る学習を展開する。
会長	市立川越高校から補足等はあるか。
校長	大学への状況は、年度途中であり不確定な部分も多いが、総合型選抜を受験する生徒が増えている。また、大学では総合型選抜の定員も増えている。3年生の一般受験は、昨年度に比べると受験者数が倍ぐらいになりそうである。 12月までの英語検定2級の合格者が52名いる。昨年度に比べ3倍に増えた。今の3年生は、1年次からリスニングなどを徹底することで、成果が出ているのではないかと考えている。 共通テストの受験者は、昨年度は14名だったが、今年度は38名であ

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	り、令和4年度と同じ数値に戻った。 国際経済科の生徒は、学校推薦や総合型選抜の受験割合が多い。学科名の変更については、校内の委員会においても話し合っている。男子は野球部、女子はバレーボール部、バスケットボール部等に入部している生徒も多いので、「スポーツビジネス」のほうが、実態に合っているのではないかという意見であった。
会長	ただ今の説明について、まずは普通科の今後について、御意見や御質問等はあるか。
三原委員	以前、経済学部などは文系だったが、現在は数学が必須になったこともあり、理系と考えることもできるようになっている。本校の実情は、どうか。
校長	本校の実情は以前と大きく変わっていない。本校で国立大を受験する生徒は少ないが、文系・理系のそれぞれのクラスから受験する者もいる。また、経済学部を数学で受験する生徒がいらないわけではないが、本校はまだ文系の生徒が受験する割合が高い。
大野委員	文系・理系について、文系・理系にとらわれない進路選択をするという考え方もあるが、生徒や保護者にとって、文系・理系という枠のほうがわかりやすいと思う。学校側が進路指導を丁寧に行っているという説明もあり、2年生から緩やかに理系・文系と分けていくことも検討するほうがよいのではないかと。3年生では一般入試を見据え、クラスを文系・理系と分けていけばよいと思う。 1点質問になるが、学習指導要領の新課程の英語では、先生方の指導が結果に表れているとの説明があったが、英語以外で成果が出ている教科はあるのか。
校長	総合的な探究の時間での取組については、前回の審議会で説明したとおりである。現状として他の教科は手探りの状態である。例えば、国語科の先生たちもどのような対応をしていけばいいか、悩みながら授業を進めている。
大野委員	アクティブ・ラーニングは、どのように進めているのか。

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
校長	新課程になったことと県立高校から、指導できる教員が異動してきたこともあり、アクティブ・ラーニングを実践している教員は目に見えて増えた。ノウハウを生かしながら授業を行っている。例えば、3年生が1年生にタブレット端末を使用し、勉強を教える異学年が交流する授業を行っている。
三原委員	文系・理系と別れているのが、最近大学では文系・理系両方の勉強ができる総合的な学科も増えてきている。今後、大学で学べる科目数も増えていくのではないかと思います。
会長	様々な意見に感謝する。次に国際経済科の今後について御意見を願う。
三原委員	名称が変更されることで、受験を避ける生徒も出てくると思うので、しっかり広報することが大切である。
会長	受験生や保護者に丁寧に周知する必要があるという意見であるが、学校の考えはどうか。
校長	学科名が変更になっても、商業科であることに変わりはないので、そのあたりを中学生や保護者に周知していくつもりである。多くの中学生は、国際経済科で学びながら、各自が所属する部活動を頑張っている。学科名が変わっても、商業科としての授業を大切にしていきたいと考えている。
副会長	同窓生からは「なぜ観光科を作らないのか。」という話題になる。新しい学科名については賛成である。商業科という特徴を生かし、これまでに以上に地域と連携した学校になってほしい。
校長	観光について、現在の商業科の授業では、大きな枠組みとして捉えれば、商業科目「観光ビジネス」の授業を現在においても行っている。3年生と面談をすると、大学進学を選択肢として観光学を受験する生徒も多いが、高校の教育課程では観光科を作ることは難しい状況である。
高原委員	学科名が変わることで、教職員に変化はあるのか。
校長	まだ詳細まで調べてはいない。多少の変化はあると思うが、体育科に

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	なるわけではないので、それほど大きな変化にはならないものと考えている。
会長	続いて、議事(3)協議事項2 市内企業、大学等と連携した取組について、事務局から説明を願う。
事務局	資料3「市内企業、大学等と連携した取組について」 1 川越市のイベント 前回の本審議会では、高校生による地域貢献は企業と高校生の双方に利益があることが大事であり、川越市のイベントを利用できると良いという意見であった。 第21回川越市生涯スポーツフェスティバルでは、アトラクションとして、山村学園高校バトン部、県立川越高校應援部、総合司会として、星野高校放送部が進行した。 川越産業フェスタ2024では、川越工業高校が「オルゴールを作れる電子工作体験」、「レーザー加工機でオリジナルハンコを制作」、「サイエンスショー」を屋内ステージイベントで開催した。 2 高大連携について 前回の本審議会では、制度として高大連携はあるが、実際はなかなか進んでいないという意見であった。 埼玉大学では、高大連携講座として高校生が大学生と一緒に大学の授業を受けることで、その授業の単位を修得することができる。大宮高校、浦和高校、浦和第一女子高校などが彩の国アカデミーとして参加している。 東京工業大学では、衛生通信システムによる高大連携プロジェクトとして全国の高等学校等に大学の授業を配信するプロジェクトがある。
会長	市立川越高校から補足等はあるか。
校長	本校の生徒たちは、市内の様々なイベントに参加している。例えば、11月のウェスタ川越で開催された「川越市総合文化祭2024」にはチアリーダー部、吹奏楽部、9月の川越少年刑務所の訪問には吹奏楽部、書道部などが参加している。市内の企業の皆様には、本校の生徒でお役に立てることがあれば、積極的に参加するので、ぜひお声をかけてほしい。

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
会長	ただ今の説明について、まずは市内企業と連携した取組について、御意見や御質問等はあるか。
副会長	クレアモールで、高校生の吹奏楽部等が参加できるイベントがある。山村学園高校のダンス部や太鼓部などが出演した。このイベントは十年以上続いており、7月末の土日に開催されているので、今後、ぜひ本校にも参加してほしい。
小高委員	複数の高校が部活動で、市内の様々なイベントに参加していることはわかった。それだけでなく、運営の中核、例えば企画や運営側として参加することができると、生徒にとって、もっといい勉強になると思う。これからは、このような取組が商業科に求められているのではないか。立案から携わらせてもらい、それが成果として表れたら、生徒にとって大きな自信になると思う。もちろん生徒だけではできないこともあるので、大人や学校がサポートできる体制もつくってほしい。
副会長	商業科という特徴を生かせるものとして、予算に係るものに携わってもらうのはどうだろうか。
校長	とても参考になる意見であった。いただいた助言について、積極的に検討していきたい。
大野委員	カリキュラム・マネジメントは、現行の学習指導要領で求められている内容である。単発のイベント参加に終わるのではなく、学校設定科目として研究を進めてもらい。ぜひ企画から参加し、他の企業の方とも協同でイベント等が、川越の振興のために運営できるようになってほしい。
小高委員	保護者の意見として、こどもには早い段階で失敗や挫折を経験することで得られることがあることを、このような取組を通じて、学んでもらいたい。
副会長	川越市で販売しているミネラルウォーターは、川越工業の生徒がデザインしたものである。また、川越工業の生徒がデザインしたボールペンも販売している。

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
長谷部委員	観光協会との話の中で、市内の高校に参加してもらうイベントの中で、私は「なぜ市立川越高校が参加していないのか」と、担当者に質問をした。すると「そもそも市立川越高校が選択肢になかった」という話になった。観光協会には、本校の生徒にもイベントの企画の段階から携わらせてほしいとお願いをした。さらに今の高校生は SNS の扱いに長けているので、その力をどんどん活用していきたいという話にもなった。
会長	次に、大学等と連携した取組について、御意見や御質問はあるか。
三原委員	埼玉大学で単位認定をしているという説明があったが、具体的に教えてほしい。
事務局	大学で学んだ講義を、高校の単位として認定するということである。
三原委員	高校で、単位として認定される取組であれば、意味がある取組だと思う。
小高委員	説明があった大学は、比較的学力の高いところのように感じた。本校の現状の学力とのズレが大きくなってしまうと、高大連携がうまくいかなくなってしまう恐れがあると思う。
大野委員	進路選択は学力ではなく、生徒が何に対して興味・関心を持っているかということが大切である。出前授業などは、高大連携として単位認定するよりも、生徒たちにとって参加しやすいのではないか。本校の生徒は、とても部活動に熱心だから、大学に入ってからその分野で頑張れる生徒が多いと考える。以前の会議で、短大と協定を結んだという話があったが、現状はどうなっているのか。
校長	武蔵丘短期大学と協定書を結び、本校から受験する生徒はいるが、高大連携として大学側から栄養学の講師が本校に派遣され、講義が行われるなどの具体的な動きはないので、これから進める予定である。
会長	議事(4) 協議事項3 スクール・ミッションとスクール・ポリシーについて、事務局から説明を願う。
事務局	スクール・ミッションとスクール・ポリシーについては、これまでに

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	6回の審議会を経て、生徒募集・入試改革、特色化・実学教育、市内企業・大学との連携といった生徒の入学から卒業後までを議論してきた。このことを踏まえて、本校の育成すべき人物像を明確にすることが必要と考える。スクール・ミッションとは、高等学校が育成を目指す資質・能力を明確にするために、学校の設置者が高等学校の存在意義や期待される社会的役割等を、明確にしたものである。スクール・ポリシーとは、高等学校の入口から出口までの教育活動の指針となる3つの方針を、策定するものである。
会長	市立川越高校から補足等はあるか。
校長	学校教育目標は、これまでも作成している。今回の方針は、それをよりわかりやすくしたものである。
会長	事務局から提案があった。意見等はあるか。
大野委員	スクール・ミッションとスクール・ポリシーの説明があったが、「川越の未来」など、本校だと分かる言葉を入れたほうが良い。
会長	本校の独自性を、もっと考えたほうがよいという御意見をもらった。
三原委員	本校には3つの学科があるので、学科ごとに目標を明確にしたほうが良いと思う。
高原委員	学校教育目標から、何か変更したところはあるのか。
校長	スクール・ポリシーの「市立高校の特性を生かし」というところは変更点である。今、御意見を伺い、御指摘のとおりだと感じた。一般論すぎた面があると思うので、もう少し個性を出していきたい。
大野委員	大学の面接では必ずスクール・ポリシーについて、受験生に質問する。高校入試において面接が必須になることも踏まえ、スクール・ポリシーが一般論すぎるので、個性を出してほしいと感じた。
会長	司会の立場から失礼するが、スクール・ポリシーの4つ目は具体性に欠けた部分があると思う。時間も迫ってきたので、協議事項は以上にする。

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	る。
会長	続いて、今後の議題について、事務局から説明を願う。
事務局	次回の本審議会では、答申案を作成し、内容について協議できればと考えている。
会長	今後の議題について、事務局から議題の提案があったが、御出席の委員の皆様から、御意見はあるか。
委員	(意見等なし)
会長	様々な角度から、多彩で示唆に富む発言に感謝する。予定の時刻になったので、本日の審議を終了とする。進行を司会に返す。
司会	回りの会議は、令和7年7月8日(火)15時から16時半、市立川越高等学校での開催を予定している。 以上をもって、川越市立川越高等学校教育審議会令和6年度第3回会議を閉会とする。